

支援センター みらい 平成23年度事業報告

【概要】

支援センターみらいは、平成23年4月、北桜塚に拠点を移し、障がいをお持ちの方が地域で自立して人として当たり前の暮らしができるような支援をする事業所として新たにスタートしました。身近な地域で「住まう・働く・社会参加する」これは障がいのある、なしに係わらず普通の暮らしの形です。障がいをお持ちの方がどんな時、どのような支援があればこの普通の暮らしを安心して続けていけるのか、これからの支援センターみらいの大きな課題を一つずつかたちにするという役割りを具体化することになりました。

平成20年7月に大阪府より認可をうけていた相談支援事業所みらい、平成17年6月認可の共同生活介護・援助事業所栗ヶ丘ホーム、そして平成23年4月、大阪府より指定を受けた就労移行支援事業所ふつーる、居宅介護事業所あしすとの4事業を展開することで普通の暮らしの実現と、センター機能の充実に向けとり組みました。また、平成24年度より国における障害者施策の中でも、重要課題としての位置づけを示されている相談支援事業の助走期間と考え、行政や他の相談機関と連携を密にし、豊中という地域の中でネットワークをうまく活用し、その体制強化に努める準備をしてきました。

旧通所授産施設みらいから就労移行支援事業所ふつーるに日中活動の場が変わった10名の利用者、そして他機関から新たにふつーるに通所し始めた3名の計13名でのスタートは、自力通所に慣れることにはじまり、接客のことがば使い、履歴書を書き面接を受ける等、自立を目指し社会技能を習得するという新しい目標へのチャレンジする機会を得ました。23年の年末12月には株式会社きるとの採用試験を受け2名の方が就労に結びつきました。採用には至らなかった方もいい経験となり、自信に繋がった事は評価できることでした。

地域生活支援の観点で3事業が連携をとりうまく機能するための体制づくりはなかなか困難なことでした。日中活動の場との連携も重要です。今後必要とされる事業、必要とされるサービスを探りながらも足元を見すえ、支援センターみらいのできる事を1つ1つ積み重ねていこうと考えます。

各事業の報告を以下事業ごとに示します。

1、就労移行支援事業ふつーる

(1)利用者状況

在籍 12名（平成 24 年 3 月 31 日）		
入退所	入所 1名（24年1月） 退所 2名（23年12月・24年1月） 株式会社きると就職のため	
障害程度区分	区分1	1名
	区分2	4名
	区分3	6名
	区分4	1名
	区分なし	2名
療育手帳	A	5名
	B1	8名
	B2	1名

(2) 日課・週刊プログラム

		月	火	水	木	金
9:00	通所	喫茶	喫茶	喫茶	喫茶	喫茶
9:20	朝礼	製菓・接客	製菓・接客	製菓・接客	製菓・接客	製菓・接客
9:30	午前活動開始	みらい清掃	みらい清掃	みらい清掃	みらい清掃	みらい清掃
12:00	昼食		川瀬彦			
13:00	午後活動開始	喫茶	喫茶	喫茶	喫茶	喫茶
16:00	活動終了	製菓・接客	製菓・接客	製菓・接客	製菓・接客	製菓・接客
16:20	終礼	みらい清掃	みらい清掃	みらい清掃	みらい清掃	みらい清掃
16:30	退所					

(3) 職員体制

	常 勤	非 常 勤
管理者	1	
サービス管理責任者	1	
職業指導員	1	1
生活支援員		1
就労支援員	1	
計	4	2

(4) 建物・設備維持管理

害虫駆除：7月2日実施

清掃：7月5日実施

消防設備点検：10月21日実施

(5) 車両管理

キャラバン 1台 作業等利用者移動に使用

ムーブ 1台 他の事業にも使用

定期点検、車検実施

(6) 年間行事・余暇支援

余暇活動 (年4回土曜日開所)	5月21日	カラオケ
	8月27日	映画鑑賞
	12月17日	ユニバーサルスタジオ
	2月18日	ボウリング
一泊旅行	11月10日～11日	奥城崎
スポーツフェスタ	10月7日	みらい・第2合同

(7) 健康管理

健康診断(8月5日)インフルエンザ予防接種(11月26日)ともに山口記念病院にて実施

昼食は家庭からの弁当持参もしくは配食による弁当を利用(実費)

厨房業務は月1回の検便実施

(8) 防災

避難訓練 24年1月・3月に実施

(9) 支援の取り組み

喫茶接客を通して言葉使い、コミュニケーションのとり方を体験した。

厨房で作った菓子が売れる喜びを体験した。

販売先(喫茶ふつーる・くらしかん・国際交流センター・ふらっと等)委託販売(eスローライフ・あすなろ)

喫茶厨房では、衛生管理に努め製菓の過程を役割分担することで仕事の責任を感じる。

自分たちの作った製品を販売する喜びを感じる。

喫茶ふつーる売上一覧

	来客数 (人)	持ち帰り (個)	セット (個)	協力販売 (円)	訪問販売 (円)	合 計	売り上げ (円)
4月	207	772	109	0	0	881個	116,380
5月	296	1067	181	0	0	1248個	172,660
6月	178	757	165	96	79	1097個	152,561
7月	215	517	128	29	131	805個	119,708
8月	137	620	116	83	229	1048個	151,372
9月	161	535	92	15	136	778個	113,884
10月	148	594	115	20	150	879個	121,918
11月	108	497	75	36	74	682個	89,593
12月	135	606	67	73	40	786個	95,165
1月	138	288	48	64	127	527個	67,335
2月	125	782	176	85	58	1101個	163,423
3月	172	771	98	16	101	986個	124,298
計	2040	7806	1370	517	1125	10818個	1,488,297

みらい清掃・・・1週間交代ではあるが、日々継続することにより清掃技術の向上を図った。

企業実習・・・企業現場での様子を知り、様々な仕事内容を取り込むことで本人の仕事の選択の幅が広げられる様支援をした。(ラスティング・川瀬彦)

清掃実習・・・みらい・豊島高校・千里コラボ(23年12月で終了)

施設外実習・・・ふつーる支援者は同行しないので実習先の職員より様子を確認することで必要な支援をした。
(原田老人センター・くらし館)

豊中市伊丹市クリーンランド

職場体験実習(6月20日～7月17日) 7名参加

面接試験(11月7日～11月18日) 7名応募

実技試験(12月1日～12月16日)

採用人数30名(うち5名は支援学校卒業生枠) 合格者2名

定期実習

	合計(12ヶ月)	平均(12ヶ月)
豊島高校清掃(トイレ)	372,000	31,000
ラスティング	191,600	15,966
川瀬彦	99,936	8,328
みらい清掃(トイレ)	236,000	19,666
合計	899,536	74,960

短期実習

	合計	平均(12ヶ月)
豊島高校清掃(教室)(1ヶ月)	22,000	1,833
千里コラボ壁面清掃(4ヶ月)	144,480	12,040
前田商店(3ヶ月)	8,400	700
クリーンランド(1ヶ月)	168,000	14,000
合計	342,880	28,573

喫茶実習売り上げ金額

	合計	平均(12ヶ月)
マドレーヌ	1,488,297	124,024

総合計

定期実習+短期実習+喫茶実習=合計

$$899,536 + 342,880 + 1,488,297 = \boxed{2,730,713}$$

利用者支払い工賃

利用者人数(延べ人数)	158名
支払い合計	1,776,353円
平均工賃	11,243円

*差額の954,360円に関しては、マドレーヌ材料費、清掃等の道具購入費、消費税、雑費に使用

(10) 大阪府緊急雇用創出基金事業の地域人材育成事業により平成23年度の1年間、2名の臨時職員を雇用した。資格取得（ホームヘルパー・ガイドヘルパー）のための事業であるが、その他の時間はみらい・第2みらいでの現場実習、ふつーるでの就労支援の研修をして頂いた。

(11) 広報・渉外

広報誌センターみらいの発行（23年5月・24年2月）

関係機関の紹介（豊中親和会ホームページ）

市内イベントでのマドレーヌ販売。喫茶の出前（えんコラフェスタ）

(12) 苦情解決・ヒヤリハット

外部からの苦情1件（23年7月）

マドレーヌに毛髪が混入していたとの苦情あり、厨房内は保護帽を着用する事になっているが、さらに粘着テープを使用し白衣・帽子の点検を行う。ヒヤリハット6件

利用者支援上のヒヤリハットは記録に残した後、職員で検証・再発の防止に努めた。些細なヒヤリハットも見逃さないような意識付けを習慣にする。3月15日実施の第3者委員会にて報告、助言をいただく。

(13) 法人全体研修 年2回

*前半期（てんかん発作と対応）*後半期（虐待防止について）

外部研修 3名参加（相談支援従事者初任者研修 相談支援従事者
現任研修 障害者リハビリテーション推進フォーラム）

職員会議 センター会議、ふつーる会議（それぞれ月1回）

サービス向上委員会、運営会議、所属長会議、施設長会議（豊中市）

2、栗ヶ丘ホーム（共同生活介護・共同生活援助）

23年度は9月1日付で府営桜塚住宅の1階に新規ホームとして「桜塚ホームⅢ」を新たに開所する。日中第2みらいに通所する男性2名（障害程度区分ともに5定員は3名）で9月26日からの入居となる。はじめの5ヶ月は週3～4日の宿泊とし、ホームの生活に慣れると徐々に利用日数を増やしていくことで、3月は週4～5日が定着してきた。23年度末のホーム利用者は6か所で21名（男性16名、女性5名）となる。

(1) 職員体制

管理者1名（兼務）、サービス管理責任者1名（専任）、事務員1名（兼務）

栗ヶ丘ホーム：生活支援員1名、世話人1名、土日の生活支援員1名

末広ホーム：生活支援員1名、世話人1名、週3日19:30

栗ヶ丘・末広ホーム : 第2・第4土曜日
桜塚Ⅰ・Ⅱ・桜塚ホームⅢ : 第1・第3土曜日

(4) 年間行事等

ホーム合同余暇支援を2回実施。

① 5/3 (祝) 万博公園。利用者19名参加。

② 3/20 (祝) 枚方パーク。利用者21名参加。

その他にも、2ホーム合同余暇支援として、ボウリングやカラオケなども実施し、各ホームでも調理実習や外出等の余暇支援、また平日に誕生日会も行った。

(5) 健康管理・給食

<健康管理>

毎朝の検温、各利用者の服薬管理はもとより、排便、排尿も確認し、常に利用者の健康管理には配慮している。また、利用者が何か体調を崩した際は、ホーム、センター、事業所、ご家族が連絡をとり、すぐに対応できる様にした。

<給食>

夕食・朝食とも世話人により、基本その日に購入した食材をその日に調理し提供する。

毎月1ヶ月のメニュー表を配布し、栄養バランスを考えたものを提供した。

(6) 防災

各ホームとも年に2回(桜塚ホームⅢは1回)、避難訓練を実施した。利用者が日頃から慌てず避難できるようにするだけでなく、支援者自身も意識を高め、災害時しっかりした判断で行動できるよう事前に各ホームの支援者に避難訓練計画書を、事後は報告書を提出していただいた。訓練は火災もしくは地震を想定し、いろんな状況も考慮し行った。地震の場合は、実際に非常時持ち出し袋を持って地域の避難場所まで避難した。

(7) 活動支援の取り組み

各ホームで独自に工夫して取り組んでいる。時々、ホーム内だけでなく、外に散歩や買い物に出かけ、ゆっくり過ごした。ホームでも調理補助や洗濯物干し等の手伝い、カラオケやゲーム、テレビ等、各々いろんな時間を楽しんでおり、支援者はそれをサポートしている。

(8) 広報・地域活動・実習

桜塚ホームⅠ・Ⅱでは、月に1回敷地内の公園や団地周辺の定期清掃（第3日曜日の午前9～10時）を行っており、その際近隣の住民の皆さんと掃除を通して交流している。

(9) 苦情対応

末広ホームでは、隣の住民より声がうるさいとの苦情あり、状況を説明し謝罪した。

桜塚ホームⅠ・Ⅱでは階下の住民より声や物音に関する苦情が何度かあった。その都度、謝罪に行くとともに、床にコルクマットを敷きつめる対応をとった。

(10) 職員研修・会議等

<ホーム会議>

毎月1回月末に、生活支援員・世話人が支援センターに集まり、ホーム会議を開いている。

平成24年の1月から生活支援員と世話人それぞれの会議も実施し、ケース検討などを新たに取り入れ、支援の在り方について共通認識を深めた。

<保護者会>

毎月1回月初に各ホームで保護者、生活支援員、世話人、センター職員で保護者会を実施。

ケアホームでの日頃の様子など伝えたり、予定の確認など家族との連携を深めている。

<職員研修等>

機会があれば、生活支援員や世話人にできるだけ研修に参加してもらっている。平成23年度は、「防災研修」、「感染症予防研修」参加。豊中市自立支援協議会の部会主催の「グループホーム・ケアホーム従事者研修」に支援者2名、大阪府主催の研修に7名参加した。

3、相談支援事業（豊中市生活アシスタント事業）

（相談の具体的な内容）

- ・福祉サービスの利用方法（短期入所・移動支援等）
- ・日中活動の場の利用
- ・療育手帳申請の相談

- ・障害基礎年金の申請・同行、児童の将来の相談
- ・施設入所の希望など
- ・義肢装具の申請相談
- ・ヘルパー事業所との連絡調整

学習塾からは障害児が通っているが何に重点をおいて指導したらいいか、など幅広い相談が寄せられた。

サービス利用計画作成 5名の方と契約、その内3名（残る2名は入所施設に移行）の方は24年度も引き続きサービス利用計画の契約を結ぶ予定
 市内相談支援機関との連携「えん」への参画 情報交換、困難事例の検討
 「えんコラフェスタ」サロンの実施・協力
 自立支援協議会への参画 障害者就労促進部会 障害福祉サービス事業者連絡会

(相談窓口の設置)

平成23年4月1日から平成24年3月30日現在

開所日数 263日、相談件数 208件、 相談述べ人数 363名

◎相談内訳

電話 100件、訪問 35件、外来 41件、同行 13件、その他9件

◎対象者

本人 66名、 家族 149名、 その他 241名

◎相談内容

生活 132件、 就労 31件、 年金 6件、 健康 11件、
 その他 16件

スポーツレクレーション事業（豊中市生活アシスタント事業）

内容：音楽レクレーション

季節に合った曲などの合唱

1人ずつハンドベルを使って協力して演奏

リトミックでリズムに合わせて歩いたり、走ったりする。

講師：NPO 法人ゴールドンベル 音楽療法士3名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
参加人数	23	22	29	22	24	26	23	22	24	21	15	23
うち新規登録者	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1

年12回 延べ参加人数 274人（平均参加人数 22.8人）

4. ヘルパーステーションあしすとの設置・運営（居宅介護・重度訪問介護・移動支援）

23年3月1日付けで大阪府の指定を受け事業展開を行ってきたが、法人として始めて取り組む事業とあって思うように安定運営が行えないまま1年が経過した。年度途中のサービス提供責任者の退職により、12月・1月は営業を休止せざるをえなかった。2月より新たな担当職員を配置し開始したものの、サービス利用者数はのびていない。そこで年度末に法人下の事業所を利用されているご家族にアンケートをとり、集計結果から今後のサービス利用者拡大のための方法を検討し24年度につなげる事にした。アンケートの回収は62件（約60%の回収率）回答頂いた方の8割に当たる51名の方がヘルパーを利用したい、いずれ利用したいと答えている。が、現在の利用者数は36名で利用にまで至らない。理由として「今のところ家族とでかけているので」「ヘルパーがうまく対応できるか不安」「いずれ利用しようと思う」「男性ヘルパーが少ない」という意見があがっていた。平成23年度末のヘルパー利用契約登録者は47名（移動38名、居宅9名）で、登録ヘルパー数は21名（女性17名、男性4名）である。

平成23年度のヘルパー利用実績

	移動支援事業			居宅介護事業		
	件数	時間	ヘルパー数	件数	時間	ヘルパー数
4月	8	27	2	8	32	2
5月	25	78	7	15	43	3
6月	42	172	8	22	50	4
7月	42	188	8	19	47	6
8月	32	145	9	20	63	4
9月	20	131	8	6	24	1
10月	13	87	7	3	13	3
11月	14	99	5	2	9	1
12月						
1月	6	35	4			
2月	11	53	5	4	19	2
3月	25	152	14	7	35	3
計	238	1167	77	106	335	29